



未来へつなごうふるさとの自然

たんけん



水土里ネットふるさと探検!!

～水の歴史をたずねて～



みうらぜき

みうらぜきとうしゅこう

三浦堰と三浦堰頭首工

平成17年9月21日(水)

水土里ネット二井田真中

(大館市二井田真中土地改良区)

みず

れきし

みうらげき

みうらげきとうしゅこう

『水の歴史』～三浦堰と三浦堰頭首工 についてしらべてみよう！



わたしたちが食べているお米は、2千年以上も昔に日本に伝わりました。お米づくりにはたくさんの水が必要です。そこで村の人たちは川から水を引いて、力を合わせて田んぼをつくるようになりました。

そして、頭首工や水路ができたおかげで、水不足の心配がなくなり、安心して田んぼがつかれるようになったばかりでなく、お米もたくさんとれるようになりました。

みうらげきとうしゅこう

◇三浦堰頭首工◇

川の水をせきとめて用水路へ水を送るための施設を「頭首工」といいます。犀川につくられた三浦堰頭首工は、「三浦堰」へ水を送るための施設であることから、「三浦堰頭首工」という名前がつけられました。

水が必要な時には、ゲートと呼ばれる大きな水門を操作して、川の水をたくわえるしくみになっています。

昔の三浦堰頭首工は、コンクリートだけでつくられていましたが古くなったため、今から8年前に現在の頭首工につくりなおされました。



みうらげき

◇三浦堰◇

「三浦堰」は、二井田地区と真中地区の田んぼ畑、約399ヘクタールに水を運ぶための水路です。二井田地区の住宅地内を東西に流れており、その長さは約2,788mになります。



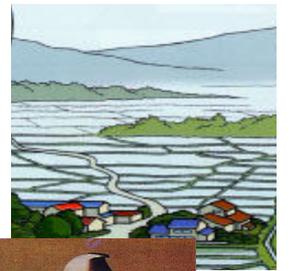
三浦堰の水は、お米をつくるために必要なだけでなく、

火災が発生した時の防火用水や雪の処理など、私たちのくらしに役立っています。



◇由来と歴史◇

三浦堰には古い歴史があります。今から約150年前（江戸時代）山本郡鷓川町（今の八竜町）の大地主の家に生まれた三浦八右衛門は、何ひとつ不自由のない身でありながら、人のためになることをしなければと、この地に来て田んぼと畑を自力で造り上げました。そして、犀川から水を取り入れるための用水路（三浦堰）を造る計画を立てたのですが、工事に反対する村人が出たり冷害が続き餓えて亡くなる人が出るなど、工事はなかなか進みませんでした。八右衛門は佐竹藩に工事の協力をお願いし、それを引き受けた藩は、6年の年月をかけて1858年（安政5年）に三浦堰を完成させたのでした。工事を終えた八右衛門はその後、別の土地に移りましたが、八右衛門の住んでいた土地を「三浦」と呼ぶようになりしました。これが現在の三浦集落のはじまりであり、八右衛門が造った用水路を「三浦堰」と呼び開拓された田んぼを「三浦水田」と呼ぶようになりしました。三浦堰は当時はもっと曲がりくねっておりそれは洪水に備え、水の速度と田んぼの畦の強さ、水の温度まで考えたうえのもので、今の科学の知識にかなう原理で造られていましたが、現在はコンクリート水路になっています。



みうらはちうえもん
【三浦八右衛門】

○土地改良区はなにをするところ？

安全でおいしいお米をみんなにたくさん届けるために、農地を大きくしたり、形を整えたり、田んぼや畑に水を運ぶための農業水路や農道を管理している農家の団体です。

二井田真中土地改良区が管理している範囲は約588ヘクタールあり、ふるさとの農業や農村が元気になるようがんばっています。



ちしき まめ知識

全国の大きな農業水路を全部つなげると約4万km、地球をぐるっと1周するほど長いんだよ。小さな水路まで全部合わせた長さは、約40万kmで地球10周分。そして、全国の田んぼがたくわえられる水の量は、50億リットル。なんと東京ドーム4200杯分だ！



○水土里ネットってなんだろう？

水 …農業用水、地域用水 **土** …土地、農地、土壌など **里** …農村空間、農家や地域住民が
一体となった生活空間

「**水土里ネット**」は土地改良区の**“愛称”**です！

水土里ネットは、これまでの土地改良区の活動や役割を地域の人たちに紹介しながら、人、物、情報のつながりにより地域住民や都市住民と連携(ネットワーク)して、みんなの知恵でこれからの農村をつくりだし、21世紀の新たなふるさとづくりをめざします。



~Memo~



発行 水土里ネットニ井田真中

<http://www15.plala.or.jp/niida17hp/>

(大館市ニ井田真中土地改良区)

〒018-5751 大館市ニ井田字高村 56

TEL・FAX 0186-49-5010

E-mail: ni-tokai@agate.plala.or.jp

